



SALVATIONIST

とぎのこえ

2018年標語「イエス、あらゆる名にまさる名！」(フィリピの信徒への手紙 2章5～11節)



二〇一八年五月十五日発行

明治二十八年創刊

福音版・毎月一日発行

広報版・奇数月十五日発行(除く七月)

初夏号

広報版

2018

May-June

No.2767

2018年 救世軍標語

「イエス、あらゆる名にまさる名！」

このため、神はキリストを高く上げ、あらゆる名にまさる名をお与えになりました。(9節)

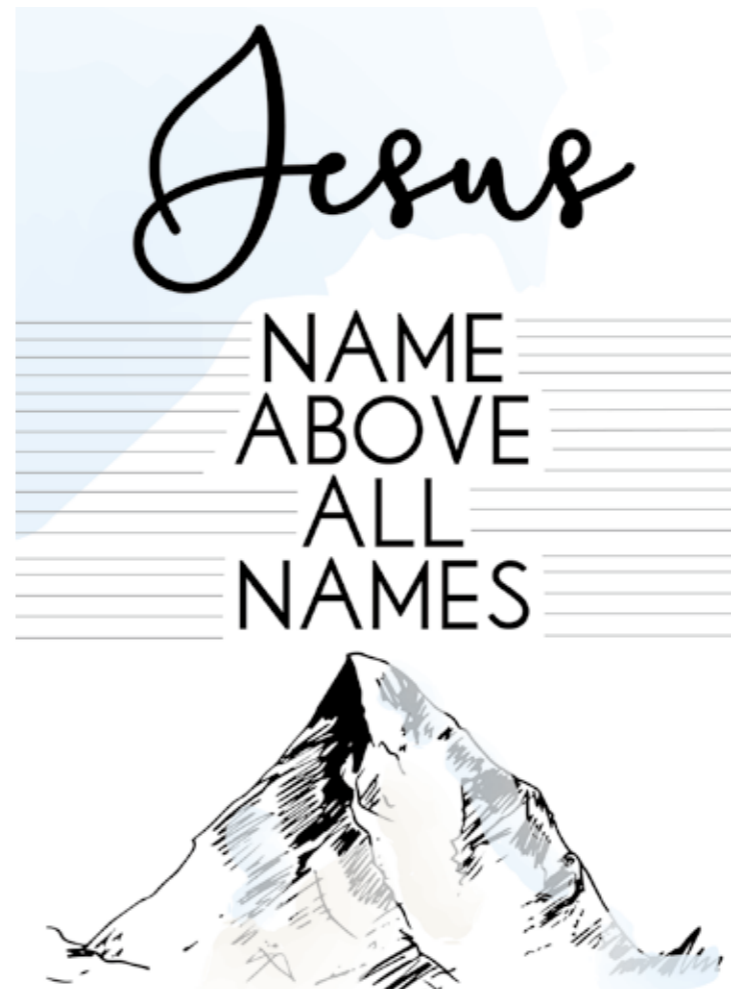
聖書箇所：フィリピの信徒への手紙2章5～11節

ときのこえ SALVATIONIST

初夏号 広報版 2018 May-June
NO.2767

もくじ

- メッセージ
父の愛、神の愛
司令官 ケネス・メイナー …… 3
- 集会報告
『神の国を伝える者』の学年
士官候補生歓迎集会 …… 4
- 西日本連隊 京阪神地区
克己週間出発集会 …… 4
- ニューヨーク・スタッフ・バンド
日本ツアー …… 5
- 各地のニュース!! …… 9
- (連載) 献身物語～十人十色～第90回
だれの口にもものぼらない
「神に捕まった」話
少佐 宮本正勝 ……10
- (連載) 聖潔の流れに立つ 第一回
聖書の教える聖潔
少佐 志村善也 ……11
- 災害対策室リポート ……12
- YP (青少年部)・ファミリーニュース ……13
- 医療特集
キリストの愛を原点に ……14
- 公報・ご案内 ……15
- 救世軍歌集 作者物語 第226回 ……15



-きりとり-

『ときのこえ』購読を申し込みます。
(1年分1140円。税込、送料別)

キリスト教についてもっと知りたいです。

ご氏名 _____

ご住所 _____

父の愛、神の愛

司令官 ケネス・メイナー

六歳の時、父がプロのア

メリカンフットボールの試合に連れて行ってくれました。スタジアムには、八万五千人以上の観客がひしめき、群衆の熱狂的なざわめきと、ホットチョコレートやコーヒー、ポップコーン、ハンバーガーのおいしそうな香りが食欲を誘うように満ちていました。その日のことは、生涯忘れることのない強烈な思い出となりました。

対戦チームのフィラデルフィア・イーグルスは、輝くばかりの緑とシルバーのヘルメット。ユニフォームも威厳に満ちていました。迎える地元チームのクリーブランド・ブラウンズの白いユニフォームとオレンジのヘルメットは、ちょっとグサイ印象。それでも私はブラウンズがチャンピオンシップを獲得する最強チー

ムだと思っていました。

ところが実は、そうではありませんでした。ブラウンズは、何十年も鳴かず飛ばずの成績で、その前のシーズンは一勝三十一敗だったのです。私はブラウンズが大好きで、彼らが最高だと思っていました。そう思ったのは、父がそこに一緒にいたからかもしれません。父は、本当に働き者で、貧しい中にも、家族のために喜んで犠牲になっていました。家族を養うために長時間働きました。家族を心から愛していたからです。

子どもが父親と過ごす時間にはかけがえのないものです。多くの人が両親の愛に恵まれています。残念ながら、そうでない人もいます。そういう方には、愛に満ちた父親像も、愛に満ちた神様の存在も考え難いものか

もしませんか。

聖書は、「神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである」(ヨハネによる福音書3:16)

と神の愛を記しています。神様は、私たちが愛するがゆえに、独り子を私たちに与えてくださいました。私たちの贖い主とさせるため、心からの贈り物としてイエス様を与えられたのです。これ以上の愛があるでしょうか。

また、聖書は、その死によって表されたキリストの愛と、大いなる神の愛を明らかにしました。神様は、私たちが深く愛するがゆえに独り子を私たちに与えてくださいました。父なる神は、その深い憐れみを示さ

れるだけでなく、私たちが神様を知り、神様を愛することを求めておられます。

もし、現実の父親や権力者の姿を見て、神様を知ろうとするなら、あまいな、ゆがんだ認識しか得られません。けれども、もし私たちがイエス様を見るならば、父なる神のご性質と温かい愛がはつきりと見えてくるのです。

父なる神は、私たちに父と子の関係のようにご自身を見、理解してほしいと望んでおられます。父と子の間で交わされる愛情のこもった会話のように。

「しかし、時が満ちると、神は、その御子を女から、しかも律法の下に生まれた者としてお遣わしになりました。それは、律法の支配下にある者を贖い出して、わたしたちを神の子となさるため

した。あなたがたが子であることは、神が、『アツバ、父よ』と叫ぶ御子の霊を、わたしたちの心に送ってくださった事実から分かります。ですから、あなたはもはや奴隷ではなく、子です。子であれば、神によって立てられた相続人でもあるのです。」(ガラテヤの信徒への手紙4:4-7)

父親は贈り物をするのが好きなものです。子どもたちがそれを喜んでいるのを見るのが嬉しいのです。その心のこもった贈り物が、子どもへの限らない愛と、子どもの存在そのものへの喜びを示しています。神様は日ごとに私たちのために豊かな贈り物をくださっています。問題は、私たちがそれを知らずとも考えようとしないうちにありま

す。感謝の思いは、私たちが目を開かれ、その贈り物に気づき、贈り主である神様に向かって目を向ける時にあふれるものです。その感謝の喜びは礼拝の喜びとなります。

神の愛は、ご自身の民との約束を実現することによって表されました。神様の私たちにへの御約束は、独り子イエスによって確かにされ、守られています。数えきれないほどの恵みの確かさとともにその御約束によって、神様は私たちが愛しておられるのです。そして、その約束を守り続けることをとおして愛を示しておられます。

私の願いと祈りは、神の愛という真理が、あなたの内で生き生きとしたものとなることです。神の愛はつきりと経験するならば、あなたもその愛を周りの方に届けることができるのです。(司令官 大佐)

集 会
報 告ニューヨーク・スタッフ・バンド (NYSB)
日本ツアー 3月20日(火)～25(日)

大阪公演

3月20日(火) 会場：ザ・シンフォニーホール

今回の日本ツアーの幕開けとなる大阪公演。招聘委員会ははじめ多くの戦友が祈り、期待しつつ準備してきた日を迎えました。ニューヨークからの飛行機が大幅に遅れるアクシデントがありましたが、主は祈りに応え、メンバーを無事に大阪へ送っていただきました。当日は冬に戻ったような冷たい雨と風の一日でしたが、18時の開場と同時に、「世界一の響き」を実現する音響に秀でたホールでのNYSBの音色を期待して多くの人が集まり、ロビーは開演を待つ人たちの熱気で満ちました。

19時の開演と同時に、NYSBは長旅の疲れも感じさせず、高い技術と、曲に込められた意味に深く心を注いだ演奏で、広い会場を埋めた聴衆の心をつかみました。

コンサートの曲目構成には、霊的な音楽を通してキリストを証するというNYSBの使命が感じられました。ホルネット・ソロ、トロンボーン・ソロ、ユーフォニアム・ソロの各曲では、それぞれのプレイヤーが超絶技巧と柔らかな音色で聴く者を圧倒しましたが、演奏後の拍手にハレルヤの敬礼で応える姿に、賛美と栄光を神に献げ、キリストを証する信仰者の姿が現れていました。

第一部の最後は交響詩「神の国の勝利」。最後の審判とキリストの再臨をテーマとした荘厳な曲で、この地上にかつて来られたイエス様が、やがて再び来られることへ心向けさせられる、印象深い一曲でした。

第二部はラテンのリズムの「ヴァレロ」と、華やかで洒落た曲調の「ニューヨーク・ニューヨーク」で始まりました。NYSBのホームタウンである街の姿を彷彿とさせる演奏で、会場の空気もくつろぎ、より親密感が増したようでした。バンドコーラス「詩編23編」は、聖句そのままが歌詞となっており、4、5節の部分は日本語で歌われました。最終曲は「聖徒よ、目を覚ませ」。形だけの信仰しかもち合わせていなかったクリスチャンが、イエスと出会うたび霊を燃やされ、社会の中での信仰の戦いに出て行くというストーリーは、救世軍人に大きなチャレンジと励ましを与える一曲でした。

アンコールでは日本で知られている「情熱大陸」と、コーラス「とこよのいわよ」。コーラスの美しいハーモニーは、多くの観客の心に触れたようで、涙しながら聞いている方も見受けられました。

終演後、ロビーではバンドメンバーが聖書を配布し、サインや写真撮影に応じ、楽しい雰囲気でした。来場していた子どもたちに感想を聞くと、「すごかった」、「指揮がかっこよかった」、「迫力があってすごかった」、「サインをたくさんもらって嬉しかった」、など、笑顔で答

えが返ってきました。「音色の美しさに、銀の粉が天からきらきらと降ってくるように感じた」「合唱が素晴らしかった」などの声も聞かれました。CD販売も盛況。また、社会鍋も立てられ、救世軍の働きに理解とご協力をいただく良い機会ともなりました。(聴衆1,400人)

京阪神地区連合集会

「賛美と喜びのつどい」

3月21日(水) 会場：救世軍大阪セントラルホール

前夜のコンサートの興奮も覚めやらぬ中、京阪神地区を中心に各地から救世軍人やブラス愛好者が集いました。開会前、10時15分からのミュージックタイムでは、京阪神地区の青年楽隊員がNYSBと共に数曲を演奏しました。定刻、NYSBの演奏で開会。司会の西日本連隊長太田晴久少佐は、アクシデントもあったが祈りによって無事この日を迎えたことの感謝を語りました。司令官ケネス・メイナー大佐はNYSBメンバーを歓迎、紹介し、また、今回のツアーの準備に力を尽くした連隊長はじめ京阪神地区の救世軍人に感謝を述べました。

そして「演奏およびメッセージ」の時間。NYSBが4曲を演奏、合唱しました。聖霊の息吹を感じる祝福された時間でした。続いて、ヨハネによる福音書10章1～10節より、バンド・エグゼクティブ・リーダーのジェームズ・ラボッシュエル大佐補がメッセージしました。

「イエス様こそ救いと聖潔への唯一の門である。羊飼いと羊の麗しい関係性は神と私たちとの関係であり、羊飼いは身を挺して外敵から羊を守る。イエス様は真の羊飼いとして、すべての人に豊かな命を与えるために十字架に架かれた。キリストと共に生きる幸いをすでに知っている私たちは、救世軍の使命である救いのメッセージ、キリストの福音を多くの人に伝えるため世に出て行く。」

NYSBの合唱「とこよのいわよ」で、祝福されたつどいを閉じました。(会衆150人)

午後は天神橋筋商店街での証言の行軍。午前の雨も上がって、天満駅前での演奏も無事にできました。祝日ということもあり、商店街は多くの買い物客でにぎわっており、アーケードに響き渡るNYSBの迫力ある音色に多くの人が立ち止まり、耳を傾けました。配布した分冊聖書も次々と受け取られました。(参加者100人)

帰隊後は、お茶と交わりの時。バンドメンバーとの良い交流の時をもちました。

感謝に満ちた大阪での二日間が終了し、NYSBは夕方の新幹線で東京に向かいました。(西日本連隊報)

(次ページに続く)

集 会
報 告『神の国を伝える者』の学年
士官候補生歓迎集会

2018年4月6日(金)午後7時 山室軍平記念ホール

定刻、ジャパン・スタッフ・バンドによる奏楽「神の兵士らは勇ましく進む」の勇壮なメロディーに迎えられ、『神の国を伝える者』の学年 友安淳候補生が入場し、会衆は大きな拍手で迎えた。

挨拶において司令官ケネス・メイナー大佐は、霊的にも肉体的にも目を覚まし、心を開いて御言葉と聖霊を受け入れ、自由な心で礼拝を献げる、という3つの祈りを示し、出身小隊である、呉小隊の吉田輝美中尉、前西日本連隊長太田晴久少佐夫妻、また、これまで候補生を支えてこられた親しい関係者を歓迎した。

司令官は、続いて学年旗の授与を司式し、友安候補生が、勇敢で、祈り深く、光なる神の国を伝える者となるよう奨励した。友安候補生は、救世軍の使命を示す救世軍旗の下、2年間の学びと訓練に励むことを宣言し、学年旗を受け取った。

軍国女性部会長シェリル・メイナー大佐は、今日まで候補生のうちになされた神による良い業が、聖霊と御言葉によってさらになされるよう、日々の訓練の上への祝福を祈った。また、樋口潔候補生、光世候補生が二年に進級したことが告げられ、東京東海連隊に転任し、集会に参加していた士官が紹介された。

渋谷小隊唱歌隊は、「たたえましよう イエスのみ名を」を拍手やアクションを入れて明るく力強く賛美し、友安候補生は、献身に導かれた経緯を真実に証した。

司令官は、「主の力によって」と題してゼカリヤ書4章1～6節より語った。「あらゆることを可能にさせて

くださるのは神だけである。神だけが、そのための力を与え、人を造りかえる力を与えてくださる。ゼカリヤが、神からの御言葉をいただいたとき、民は寝たような状態であった。私たちは3つのことによって生きなくてはならない。①神の霊によること—自分の無力さを知り、だからこそ用いようとしてくださる神に24時間信頼する。②神の御言葉によって生きること—人生の取り扱い説明書として、朝も夜も御言葉にすぎり、御言葉のみを武器とし、その力に依り頼む。御言葉のみが、人々を癒し、怒りから解き放つことができる。③守り支える民を得ること—サポートし、祈ってくれる存在、仲間がなければ成長することはできない。清瀬病院では、3人で祈る時をもっていると聞いた。共に祈る祈りによって神の御業を見ることが出来る。」司令官は、このような生き方を求める祈りへと会衆を招き、会衆は、恵の座で、グループになって、立ち上がって熱心な祈りを献げた。最後に、書記長官藤井健次大佐補が閉会祈祷をした。(会衆128人、恵の座13人)



証言をする友安淳候補生

西日本連隊 京阪神地区
克己週間出発集会

2018年2月18日(日)午後2時30分 大阪セントラルホール



立石友理恵少佐



鈴木和美副会計



西成小隊による賛美と標的の発表

日曜午前の礼拝をそれぞれの小隊で守った京阪神地区の救世軍人・関係者が共に集い、克己週間のために祈りと御言葉で備える時をもちました。野本亮一兵士(神戸)の司会によって集会は進められました。

前奏において、天満小隊家庭団タンバリン隊が大阪セントラルホール・バンドの演奏「MARCH-SA」にあわせて操練。にぎやかに開会しました。

池田孝之特務曹長による祈祷、連隊長太田晴久少佐の挨拶に続いて、標的発表の時。西成小隊が司会者のギター伴奏による賛美とともに、それぞれの小隊の募金の標的を発表しました。

鈴木和美副会計(泉尾)が募金の恵みを証言。最後に立石友理恵少佐(神戸)は「イエス様がわたしを知っておられる」と題して、ヨハネによる福音書13章12～20節よりメッセージをしました。(会衆53人)(連隊報)

集会 報告

写真は、上より時計回りに
 ○天神橋筋商店街での行軍
 ○東京公演での足立区立花畑西小学校金管バンド部との共演
 ○チャリティーコンサートでのアンコール
 ○デリック・ランス楽長
 ○ジェームズ・ラボッシエール大佐補



第二回 救世軍チャリティーコンサート

3月22日(木)

会場：東京オペラシティ コンサートホール

18時の開場とともに、ホール前のホワイエではジャパン・スタッフ・バンド(JSB)による歓迎の演奏が始まり、「子どもたちの未来のために」のテーマによる音楽の饗宴の夕べが幕開けしました。NYSB 楽長デリック・ランスが指揮した曲の後には、ホワイエに大きな拍手が沸き起こる一幕も。ホール周辺に立てられた三箇所の社会鍋には、「子どもたちのために」との思いをもった多くの方のご協力をいただきました。

18時30分開演。特別ゲスト松居直美氏によるパイプオルガン演奏「トッカータとフーガ ニ短調」の聖なる音は、会場を神の宮、礼拝の空間へと造りかえ、その後のすべての演奏が神への賛美として献げられることを印象付けました。JSBの演奏に続いて、二組目の特別ゲストである東京少年少女合唱隊(指揮：長谷川久恵、ピアノ：住江一郎)による合唱がなされました。澄んだ声で「アメージング・グレース」を歌いながら入場した彼らに聴衆の心は瞬く間に魅了され、春の歌のメドレーでは、日本の童謡の美しい歌詞と旋律に思わず口ずさむ方も。宮澤賢治作「星めぐりの歌」は、年少の子どもたちも加わり、星に見立てたペンライトの光が輝く情景に、「子どもたちの未来に幸多かれ」との祈りが喚起されました。

休憩をはさんでのNYSBとパイプオルガン共演による「ドラムとシンバルを持って主をほめたたえよ」は、ブラスバンドをしてパイプオルガンの音色、と言わしめた救世軍ブラスの魅力が最大限に堪能できる一曲でした。NYSB単独の演奏は、世界都市ニューヨークの音色が聴衆を圧倒。その現代性は神の福音の普遍性を印象付け、単独演奏最後の「静まれ Be Still」(プログラム記載「静まれきよき主はここにいます」に関する情報は誤りでした。訂正してお詫びいたします・NYSB 招聘委員会)は、有名な「安かれわがここよ」(『讃美歌』298番)の編曲。神の臨在によってどのような中であっても得られる魂の平安を証しするものでした。

アンコールに於いて、JSB、NYSBの共演、すべての演者による「ふるさと」があり、満堂の拍手は、演者へと共に祝福の時を与えてくださった神へと献げられ、聴衆は晴れ晴れとした表情で帰路につきました。この日、聴衆より献げられたご献金は、総額1,190,581円でした。また、多くの方が救世軍サポート会への入会を意思を表明してくださいました。(聴衆1,520人)

東京公演

3月23日(金)

会場：ギャラクシティ西新井文化ホール

特筆すべきは、地元足立区立花畑西小学校金管バンド部との共演。小学校児童によるソロの演奏もあり、次世代を担う子どもたちとの共演は、聴衆のみならずNYSBメンバーにも深い忘れ難い夜となりました。(聴衆740人)

千代田ブラスフェス

3月24日(土)

メイン会場：千代田区立神田一橋中学校体育館

まずNYSBは、中学校の茶道部に招かれ、本格的な茶室でお茶のおもてなしを受けました。体育館でのコンサートは、中学校和太鼓部、吹奏楽部とその関係者、各地からのブラスバンド及び愛好家が集まり、ブラスの音色と交流を楽しむ時となりました。(聴衆350人)

16時よりお茶の水から神保町に向かったの参加バンドによるパレードがおこなわれました。(参加者150人)途中、神保町三井ビルディング・エントランス北ホールでロビーコンサートを開催しました。(参加者300人)

この日のためには、会場の神田一橋中学校はもとより、千代田区及び千代田区商店街連合会、神田すずらん通り商店街振興組合の支援をいただいて、救世軍本営のある神保町界隈の人々にブラスの音を広く届ける一日となりました。

東京地区連合聖別会

3月25日(日) 会場：日本教育会館 一ツ橋ホール

NYSBによる3曲の前奏は、バンドが演奏者としてだけでなく共に礼拝を献げるためにあることを会衆に印象付けました。メッセンジャーのNYSBバンド・エグゼクティブ・リーダー ジェームズ・ラボッシエール大佐補は、日本で受けた歓迎を感謝しました。

トーマス・シェイブナー楽隊長は、NYSB 楽隊長として二度目の来日であること、そして、「何よりもまず、神の国と神の義を求めなさい。そうすれば、これらのものはみな加えて与えられる」(マタイ6:33)との御言葉が、常に自分を支えてきてくれた、と証言。

NYSBによる演奏「イン・クワイエット・パスチャーズ」とバンドコーラス「詩編23編」は、信仰者がどのような中であっても主によって魂の平安を得、永遠の命に繋がる者であることを示しました。ジェームズ・ラボッシエール大佐補は、ルカによる福音書9章1節～6節より、「イエスが、12人の弟子を遣わしたように、私たちに遣わしておられる。主は、私たちに主のために十分に備えさせてくださる。聖霊によって力を与え、私たちそのものを、主の働きのための装備としてくださる。力の源はただイエス・キリストにある」と力強く語り、主によって生きる者、イエスによって遣わされた者として生きるために、自分自身を献げる祈り、再献身の祈りを献げるよう会衆を招きました。

連日の過密スケジュールでのツアー最後となる連合聖別会でしたが、その音色は終始感謝と賛美、そして祈りに裏付けられたものでした。受難週に入る日曜日にふさわしい選曲と演奏は、聞く者の魂を揺さぶるものでした。(会衆435人、恵の座47人)

日本の人々に音楽を通して伝道したい、救世軍に連なる人々を励ましたい、との強い熱意をもって来日したNYSBの演奏と姿を通して、霊的な感化を大いに与えるツアーとなりました。

NEWS!! NEWS!!

各地のニュース!!



江東小隊

●3月11日(日)、医療部長吉田真中将・かほる中將を迎えた聖別会の席上、高島聖吾さんの兵士入隊式がおこなわれました。ご両親はじめご家族も出席し、祝福を共にしました。(写真上)

高島兵士は、「兵士入隊できたことに感謝します。昨年の北海道短期インターンシップを機に、神様の御業を感じて心を動かされました。その結果、兵士入隊への決断と、海外留学しようという思いに導かれました。インターンシップ中は、聖書の学びを毎日し、帯広小隊に来ていた子どもたちとの交わりが、自分を大きく成長させました。神様の存在をしっかりと認識し、兵士になる決断に至りました。支えてくださった方々、お祈りをしてくださった方々へ感謝の意を表し、恩返しできるよう精進していきます」と証しし、エフェソの信徒への手紙2章10節を読みました。

●4月1日(日)、イースター聖別会の席上、佐々木竜雲さんの兵士入隊式が、青少年部長石坂臣司少佐によって執りおこなわれました。佐々木兵士は、「生まれたときから、神様がいるという環境の中で育ち、衝撃的な救いの体験がないままでしたが、兵士の学び会の中で樋口愛子少佐より、『これまでの神様の恵みを感謝して、これからも神様の愛の中で信じて生きていきたい、という決意で兵士になることも大切だ』との言葉をもらい、気持ちが落ち着きました」と証しました。新しい兵士が与えられ、一同、共に生きていく復生の主の祝福に与りました。



広島小隊

●3月4日(日)、人事・教育部長石川一由紀少佐を迎えた聖別会の席上、間島年夫兵士・フタミ兵士夫妻への、西日本連隊特務曹長の辞令授与及び広島小隊長と広島小隊付の進軍令授与の時をもちました。



間島フタミ特務曹長、間島年夫特務曹長と石川一由紀少佐

大森小隊

●2月18日(日)勝地次郎中將・佳子中將を迎えて聖別会を守りました。勝地次郎中將は、ヨハネによる福音書6章22～40節より「命のパンをあなたに」と題して説教しました。

午後には家庭団例会を勝地佳子中將が導き、礼拝では、ルカによる福音書10章38～42節より、「マルタとマリア」と題して御言葉を取り次ぎました。その後参加者一同で毎年恒例となった手作り味噌の仕込みをしました。

●2月25日(日)午後、神奈川県在住の谷村蓉子兵士宅を訪問し、家庭集会の時をもちました。吉田かほる中將が「土の器」のカードを用いて、聖書からメッセージしました。(参加者5人)



ペンテコステ・サンデー 5月20日

あなたがたの上に聖霊が降ると、あなたがたは力を受ける。(使徒言行録1章8節)

呉保育所

●3月26日(月)司令官ケネス・メイナード大佐指揮のもと、新園舎竣工式がおこなわれました。すでに今までの園舎の増改築工事を終え、今回新たに、愛光園の建っていた場所に新園舎が建ちました。木の温もりの中で子どもたちがのびのびと育つよう配慮された造りとなっています。メイン通りから大変よく望めるようになり、呉地区での救世軍を証しする建物となるでしょう。



機恵子寮

●3月29日(木)、機恵子寮グループホーム「エリヤ」の開所式が、司令官ケネス・メイナード大佐指揮によっておこなわれました。

軍国女性部会長シェリル・メイナード大佐が、代表で、扉の鍵を開けました。



泉尾小隊

●1月28日(日)午後、泉尾小隊を会場に、毎年恒例の西成・鶴橋・泉尾小隊合同の新年家庭団懇親会をおこないました。第一部の礼拝では連隊女性部書記太田廣美少佐が大型紙芝居を用いて、「悪魔の誘惑を受けるイエス様」のお話をしました。第二部はお茶をいただきながら、かるたやなぞなぞ、じゃんけんゲームなどを楽しみました。(会衆13人)



月島小隊

●2月28日(水)、故生井清少佐召天四周年を記念し、生井富美子少佐宅で記念の家庭集会をおこないました。月島小隊関係者や生井富美子少佐の弟さんも出席し、共に礼拝の時をもつことができました。(参加者9人)



渋谷小隊

●2月25日(日)、連隊長石川和男少佐を迎えて、新会館献堂一周年記念聖別会をおこないました。

席上、下士官任命式があり、大岡忠昭新兵軍曹に八王子分隊曹長の、谷口雅紀兵士に商業部軍曹の辞令書がそれぞれ授与されました。

また、木村敏一曹長は、「新会館が与えられて一年がたち、時のはやさを感じる。多くの方々の協力で新会館が実現した。その後の一年が勝負だと言われたが、できなかったことを次の一年をかけて実現していきたい」と証しました。



大岡八王子分隊曹長、谷口商業部軍曹、連隊長と小隊長 山谷昌子少佐

救世軍創立記念コンサート

日時：6月10日(日)午後3時
会場：山室軍平記念ホール
演奏：ジャパン・スタッフ・バンド
合唱：渋谷小隊唱歌隊
独唱：小谷野みぎわ
その他

救世軍創立記念日(7月2日—今年で153年—)
を迎えることを記念して開催されます。
席上、第二回救世軍社会鍋俳句コンテスト表彰式

友人・知人をお誘いして参加しましょう!

2018年女性部ラリー

| | |
|---------|--|
| 北海道連隊 | 5月22日(火)～24日(木) ゲスト：軍国女性部書記補佐 石川芳子少佐 |
| 関東東北連隊 | 5月16日(水) ゲスト：張田和子中將 |
| 東京東海道連隊 | 5月16日(水) 賛美ゲスト：小谷野みぎわさん 江原美果子さん |
| 東海道地区 | 5月23日(水) 説教者：連隊女性部書記 石川節子少佐 |
| 西日本連隊 | 6月11日(月)～12日(火) ゲスト：軍国女性部会長 シェリル・メイナード大佐 |

〔連載〕 献身物語

～十人十色～ 第90回

だれの口にもものぼらない 「神に捕まった」話

少佐 宮本正勝



「士官」は、その生涯を伝道者として献げ尽くす。遣わされる任命を忠実に受け、福音の現場に立つわけです。でも、忘れてならないのは子どもです。幼い時から、集会で会う大人にどう接するかを自ら習得し、友だちを救世軍にどうやって連れてくるかを真剣に考え、まさに、子どもはあてにできる同志です。わたしは、そんな士官の子どもとして、両親の尊い働きの中で生まれ、育ちました。場違いな一枚のハガキ

家に戻ったある日、一枚の場違いというか、時宜を逃したというか、見当違いなハガキが、ポストに入っていました。本営青少年部からで、「あなたは〇年の青年デーで、献身の祈りをされています。そのために祈っています。」何で今、このハガキなのか、と思いつつ御言葉に目が止まりました。「わたしがここにおります。わたしを遣わしてください。」(イザヤ6:8)



ジャパン・スタッフ・バンドのニュージーランドツアーで (1998年10月)

振りまはまったくないし、二人の姉は嫁いでいくんだし、上から五番目のわたしは：と、なったとき、へちまっど待って」と、慌てだしました。へちまっどでも献身は神とその人との個人的な問題。両親が士官だからといって、その子どもが同じ道を行く何の決まりはない。確かに士官はすばらしい、でもそれと、わたしの将来とは関係ない。」

おまえは、あっち側ではなかったのか。いわゆる、しがない演劇青年が、与えられた仕事をこなしていく中で、劇場・ホールだけでなく、球場・街頭・野外でのイベントの企画と実施にも手を出し、幅広く、大きな顔をしてやっています。

イザヤは聖なる場所。誰を遣わすべきか」という御声を聞きました。わたしの場合、聖なる場所ではなかったのですが、「誰を」の問いに、「わたしが」と遠慮がちに手を動かしました。神はそれを見ておられたのです。貧弱でもぎこちなく、わたしの少しの変化を見逃しません。そこからは、急転直下、すべてが変わっていききました。それはもう、わたしの都合ではなく、神ご自身の都合です。やがて、第一回目のウエリントン・シタデル・バンドのツアーをお手伝いすることに、今までの赦しを乞う思いで、裏方をやらせていただきました。大きな祝福をいただき、もう前のめり、止まりません。奥さんを説得、二人のかわいい子どもと四人で士官学校へと導かれました。

わたしが懸命に、振り切るように逃げ出しました。遠くの、だれもが思いつかないところでもなく、それが芝居の世界で、高三の秋にはある劇団の研究生になっていました。舞台の仕事にかまけて、しばらく聖日を守ることにさえありませんでした。あちこち飛び回って、久しぶり

敬を彼に感じさせた(出エジプト記3:4-6)。また、預言者イザヤが召命を受けたときも同様であった。彼は神殿で主なる神が高い天の御座に座すのを見、セラフイムが天空を飛び交いながら、「聖なる、聖なる、聖なる万軍の主。主の栄光は、地をすべて覆う」と交唱するのを聞き、神殿の入り口の敷居が揺れ動き、神殿が煙に満ちるといふ荘厳な光景に出会い、彼は「災いだ。わたしは滅ぼされる。わたしは汚れた唇の者。汚れた唇の民の中に住む者。しかも、わたしの目は、王なる万軍の主を仰ぎ見た」と、聖なる神に出会った畏れの思いから出た叫び声を上げた(イザヤ書6:1-5)。



士官学校で (1980年)

入校日の少し前、お世話になった芝居仲間が「お祝いの会」(コヘルト9:15)を計画、たくさんの方々を集ってくれました。わたしが集つてくれました。わたしは制服に身を固め、救世軍の説明、入校の意味、聖書の話などをしました。良い伝道の時でした。わたしは、青少年部から場違いな一枚のハガキで、心の向きが変わりました。しかし、そのハガキを出した方はどうにもいません。飲み屋街に夜襲に行かれた方たちもいません、まして、わたしが献身したことなど知る由もありません。すべてが知らないところであつた神の業なのです。

〔連載〕 聖潔の流れに立つ 第一回

救世軍の信仰の柱である、イエス・キリストによる「救い」と「聖潔」。信じる者に神が与えてくださる豊かな恵みを十分に味わうため、日本人の筆者が様々な観点から記します。

聖書の教える聖潔

少佐 志村 善也

旧約聖書における聖潔

(1) 神の聖 旧約聖書では、神の聖がすべての聖潔の源になっている。レビ記一九章二節に、「あなたたちは聖なる者となりなさい。あなたたちの神、主であるわたしは聖なる者である」(ペトロの手紙一 1:16参考)とあり、聖書は神を「聖なる神」として啓示している。

この「聖」というヘブライ語(コーデンシ)は、「明るい」「輝く」という意味とともに、「分離」という意味もある。それは、一方では神が栄光に輝く方であることを示すとともに、他方、超越的な天地の創造者にして、全知全能なる恐るべき方であって、人はこの方に近づくことはできないし、神は人とは分離された方であることを意味しているからである。

モーセがホレブ山で、燃え尽きない、不思議な柴を見て近づいたとき、神はモーセに「ここに近づいてはならない。足から履物を脱ぎなさい。あなたの立っている場所は聖なる土地だから」と言われ、神はモーセを召して神の僕として仕えさせる前に、神の聖さ、畏

このように、旧約聖書における神の聖は、神が恐れられる神であり(詩編89:8)、汚れた者にとって近づきにくい方であり、また、威厳に満ちた王なる神の臨在(詩編93:1)を示すものであった。この聖なる神の現実性に出合うとき、人はだれでも被造物感情を抱き、人間の限界を自覚させられ、圧倒されて神の前にひれ伏す以外にない。

(2) 聖別する神 この神の聖はこのように一方において、「恐れ」「分離」を示すとともに、他方、罪深い汚れた者を憐れんでつくしみ愛して、聖別し、神の働きのために清めて用いる聖である。前述したイザヤの召命物語の続きに、セラフイムが炭火で彼の唇を清めたことよって、彼は罪を赦されて、神の言葉を語る預言者として用いられたことが語られている(イザヤ書6:6-9)。

このように、旧約聖書における神の聖は、タブーではなく、人格的聖であって、歴史の全領域で活動する積極的聖であり、全世界が神に所属するために働く聖である。

(3) 「聖なるもの」と「俗なるもの」、「清いもの」と「汚れたもの」 聖はやがて祭司的・祭儀的な方向と

預言者的・倫理的方向の二方面に発展した。前者は出エジプト記、レビ記、申命記等の律法書に顕著で、聖所に仕える者として祭司レビ人が選ばれて清められた。また、聖所に置かれる祭壇や器物が聖なる物として清められ、犠牲を献げて礼拝する日安息日、祝祭日などが、聖なる日と定められ、食べ物まで清いものと汚れたものが決められ、聖なる民イスラエルはこれらの掟を守ることによって聖とされた(出エジプト記28:29-36、37、レビ記23章、11:1-23)。

しかし、こうした律法書の聖が、神殿に関係する人や器物を物質的、機械的に聖とすると、結果的に神の聖が形式的になる危険性が後に生じ、やがて主イエスによって批判されるようになった(マタイによる福音書23:17-19)。

これに対し、旧約の預言者たちは聖をさらに深化させた。イザヤは聖なる神は正義によって自己を啓示されることを、次のように語っている。「万軍の主は正義のゆえに高くされ、聖なる神は恵みの御業のゆえにあがめられる。」(イザヤ書5:16) このように、イザヤにおいては、従来の聖概念がさらに倫理化され、高くされている。

またホセアにおいては、主なる神の聖は人の罪を裁くとともに赦し、打つと同時にその傷を癒し、生かされる人格的・救済的愛を内包している。次の彼の預言がこのことをよく表している。「わたしは神であり、人間ではない。お前たちのうちにあつて聖なる者。怒りをもって臨みはしない。」(11:9)「さあ、我々は主のもとに帰ろう。主は我々を引き裂かれたが、いやし我々を打たれたが、傷を包んでくださる。」(6:1)

好評発売中！ 新訳『聖潔のしおり』 『聖潔の葉』増訂新版 サムエル・ブレンゲル著 東京若林教会牧師飯塚俊雄訳 価格1,000円(税別) ご注文は救世軍出版供給部へ

YP (青少年部) · ファミリーニュース



八幡小隊

●3月4日(日)午後、小隊長鈴木智博大尉の司式によって、中川実理ちゃん(写真中央の赤ちゃん)の「感謝と祝福の式」をおこないました。ご両親の中川宏さん・理香さんと、おじいちゃんおばあちゃんにあたる中川嘉春兵士・みち兵士と一緒に、新しい命の誕生を感謝し、実理ちゃんが神様の祝福の中で成長するよう、お祈りしました。

●昨年12月に、子どもクリスマス会をおこないました。小隊長が飛び出す絵本を使ってクリスマスのメッセージをすると、みんな集中して聞いていました。その後は、みんなでキャンドル作りをしました。きれいな色のキャンドルができあがり、それぞれの家に持ち帰りました。後日、クリスマス当日に火を灯した、と子どもたちから報告がありました。



←飛び出す絵本を食い入るように見る子どもたち

↓色とりどりのキャンドルができました



杉並小隊

●2月24日(土)午後、例年連隊主催で開催していたジュニア・フェスティバルを子ども伝道活動に変え、子ども会をおこないました。杉並小隊の青年が中心になって企画し、連隊内の士官の応援も得て、楽しい時を過ごしました。

青年たちが中心となってゲームタイムを導き、「自己紹介覚えているかな?」、「○×クイズ」、「動物バスケット」などで元気に遊び、おやつタイム。続く、ムービータイムでは、「3本の木」のDVDを見ました。小隊長本村大輔大尉のお祈りや案内のあと、おみやげのお菓子ももらい、配布されていたチラシについていた「お楽しみ引換券」を持って来た子どもたちはお菓子がプラスしてもらえて、うれしそうでした。この日初めて参加したお子さんもいました。(参加者 子ども13人、保護者7人、その他の大人11人)

●3月10日(土)、毎月恒例のジュニア・クッキング&イングリッシュをおこないました。クッキングでは、まず、「チュロス」の生地をつくり、オーブンで焼く間に、クリス・マーケス大尉が「虫」の名前を英語ビンゴゲームで教えました。できあがったチュロスは、とてもおいしくて、みんなでおかわりして食べました。

初めて参加した子どもたちも楽しそうにクッキングをしていました。



渋谷小隊

●2月25日(日)午後、実習訓練を受けていた、樋口潔候補生、光世候補生の企画による「こどもまつり」がおこなわれました。わなげや、色を手につけてスタンプのようにして絵を描くコーナーなど、楽しい遊びの場所を提供しました。子どもや保護者50人以上が参加し、候補生によって、福音が伝えられました。

西新井小隊

●3月11日(日)午後、連隊長石川和男少佐と、江東小隊の楽隊員によるバンドクリニックをおこないました。江東小隊に貸し出していた楽器が返ってきたので、それを使って日曜学校の生徒たちが初めてラッパに触れる機会となりました。

若い楽隊員が、工夫をこらし、ゲームを交えながら指導してくれたので、楽しく音を出すことに挑戦することができました。



災害対策室リポート

●災害対応チャプレン養成コース

二月二十六日(月)二十一日(水)、第四回研修会が千葉県市川市「ヤマザキ製パン総合クリエイションセンター」でおこなわれました。教派を超えて参加者が集い、救世軍のテキストを用いて災害対応チャプレンの働きについて学びを深めました。

救世軍から八人が参加し、講師として災害対策室長石坂臣司少佐、災害対策室石川一由紀少佐がそれぞれ役割を担いました。(参加者36人)

救世軍は、二〇一六年四月より米国SAWSO(救世軍ワールド・サービス・オフィス)の資金によって宮城県女川町の「女川向学館」(認定NPO法人カタリゴ)を支援しています。

三月二十三日(金)、「女川向学館」で放課後の学習支援心のケアを受けた子どもたちの中から、今春中学校を卒業し高校に進学する生徒四人が女川向学館のスタッフと共に本営を訪ねました。

当日は、救世軍行事と重なり、司令官や災害対策室長等が不在のため、財産部長寺澤勇少佐をはじめ、士官、本営

軍属と、交流の時をもちました。四人の生徒は震災当時、小学校二年生。大津波の被害により、長い間仮設住宅で暮らしていた人もいました。救世軍等の支援により、勉強も暮らしても継続でき、中学を卒業するに至った、と救世軍への謝辞と感謝状をくださいました。

那倉基夫プロジェクト・オフィサーが、山室軍平記念ホール、本営内を案内し、救世軍の歴史と働き、基本精神について説明しました。その後、

救世軍からの参加者三人へ、生徒から「人生の歩み方について」熱心な質疑応答がありました。「救世軍で働くきっかけは」、「働いていく上で大切にしている言葉は」、「十五歳の時に、どんなことを考えていましたか」などの質問に、参加者は自然な形で信仰的な話しを交えつつ、答えました。

後日、参加者が訪問を通して決意したことを記す作文のコピーが本営に送られてきました。中には、その時の交流を通して夢の実現に向かって歩み出す決断をした生徒もあり、良い交流の時間であったことがうかがわれました。

●女川向学館で学んだ学生が救世軍本営を訪問



お祈りをお願い

三月一日(木)午前、悪天候に伴う強風のため、仙台小隊の第一ホールの会館の屋根がめくれ上がり、屋根のない状態になりました。今後は、安全と近隣への影響を鑑み、全面改築の方向で検討されています。仙台小隊の関係者、また近隣の方々に覚えてお祈りください。

めくれて落ちた屋根

**神様は
あなたを必要としています！
あなたも
召されていませんか？**

18歳～48歳の方で、救世軍士官として、生涯を献げて奉仕するよう、神様から召命を受けている方は、至急、小隊長か連隊長、または本営士官志願者部までご連絡ください。

〈士官候補生学年名〉
**2019年～2021年
恵みを伝える者**
**2020年～2022年
和解を伝える者**

救世軍本営士官志願者部
03-3237-0881

2019年～2021年
『恵みを伝える者』の学年
準備生紹介



眞鍋 恵準備生
皆様の祈りに感謝し、つづつ、ご報告をいたします。さらに、献身者が起こされますよう、お祈りをお願いいたします。



眞鍋 嗣道準備生
二〇一九年四月に開校される『恵みを伝える者』の学年に、杉並小隊の眞鍋 嗣道兵士及び眞鍋 恵兵士が受け入れられました。

夏期訓練任命集会
日時：6月22日(金)午後7時
会場：山室軍平記念ホール
演奏：ジャパン・スタッフ・バンド
合唱：杉並小隊唱歌隊
説教：士官学校長 熊田光子少佐

『憐れみを伝える者』の学年
『神の国を伝える者』の学年
候補生の夏期訓練への門出を共にしましょう

救世軍公報

任命(カッコ内は継続任命)
士官学校付を解く
土官学校付を解く
兼(兼)東京東海道連隊会計担当を改め、(兼)東京東海道連隊付とする
(兼)東京東海道連隊付とする
(男子社会奉仕センター)施設長補佐 田中千枝子少佐
補(兼)愛光園付 中千枝子少佐
(兼)小隊付(兼)呉保育園付(兼)呉地区社会福祉施設チャプレン) 吉田輝美中尉
(兼)霊的生活成長担当を改め、(兼)霊的生活成長部長とする (兼)司令官秘書) 中島美和大尉
二〇一八年三月二十九日付
司令官 ケネス・メイナー

救世軍歌集
作者物語
連載 226

385 つくりぬしのみひかりを (由木 康)
(承前) いろいろな賛美歌集に載せられている日曜日についての歌は、「安息日」として「礼拝」に重点を置いたものが多い。しかし、救世軍人にとって日曜日は「奉仕の日」でもあることから、特にこのことを歌いこんだ歌をリクエストしたのである。
この他、25番「昔 主イエスの」、256番「この世のつとめいとせわしく」も彼の作である。

386 よろこびいできて (ジュリア・ピーコック Julia Peacock)
(生年没年不詳)

ジュリア・ピーコックは、ブライトン・ kongressホール小隊の兵士で、1890年代にたびたび救世軍の定期刊行物に執筆の協力をしていた。
この歌は、1896年の『ときのこえ』2月8日号に、もう一つの彼女のつくった歌と共に載せられた。「新年の歌」として、救世軍人に愛唱されている。『救世軍歌集』には1899年に収録された。

387 すぎゆくつきひは (山室武甫) (1902 - 1980)

山室武甫は山室軍平と機恵子の2番目の子で長男。東京築地の救世軍婦人救済所で生まれた。武甫という名前は、創立者ウィリアム・ブースの「ブ」と、フレンド派の創始者ジョージ・フォックスの「フォ」からつけられた。長じて、同志社大学予科、早稲田第二高等学院、東京神学社(東京神学大学の前身)に学び、卒業と同時に士官学校第21期生の聴講生となった。1927(昭和2)年、英国の万国士官学校に入学し、数年間、英国軍国内の各小隊で奉仕した後、帰国した。山室武甫は、帰国後、東京・芝小隊を皮切りに、本営青年部、編集部、士官学校等で奉仕した。第二次世界大戦中に救世軍が解体されて「救世団」と改称された頃、教職を去り、「日本禁酒会」の渉外部長となった。その後、文筆活動を主とし、『人類愛の使徒ウィリアム・ブース』、『平和の使徒ジョージ・フォックス』、『民衆の友、山室軍平』、『山室軍

平選集』12巻、その他、多くの著作を世に出した。1971年には、『ウィリアム・ブースと日本』により、米国ニュージャージー州インターナショナル・ユニバーシティーより文学博士号を授与された。また、「日本禁酒同盟」国際部長、「日本酒害防止協会」理事、「日本点字図書館」評議員、「愛の友協会」(肢体不自由者福祉)理事、「日本アルコール問題連絡協議会」理事、「日本アルコール医学会」評議員、「全日本断酒連盟」顧問などを歴任。彼の没後、1987年に、彼が翻訳した『最暗黒の英国とその出路』(ウィリアム・ブース著)が刊行された。

この歌は、1933(昭和8)年に「除夜会」のための歌としてつくられた。
この他、122番「もろびとにゆきわたり」、165番「救いうけしわがここに」、228番「大能の主の召しをうけ」、230番「ちからのあふるる」、313番「イエスのみ すくい」、314番「イエスはわが盾」、357「地のはてばてまで」も彼の作である。

388 信仰によりて (ジェイムズ・モンゴメリー James Montgomery)
(1771 - 1854)

ジェイムズ・モンゴメリーは、スコットランドのアーヴィンで、モラヴィア兄弟団の牧師の子どもとして生まれた。両親は、まだ幼い彼を残して、伝道のために西インド諸島に渡ったが、病を得、亡くなってしまった。孤児となったジェイムズは、英国ヨークシャーにあるモラヴィア兄弟団の学校に送られた。そこの豊かな宗教的雰囲気の中で詩の才能が開花し、彼は10歳の時から賛美歌をまねて創作を始めるようになった。しかし、規則正しく型にはまった生活に耐えられず、14歳の時にその学校を飛び出し、21歳まで他の町の商店で働いた。
その後、1792年から「シェフィールド・レジスター」新聞の編集責任者ジョセフ・ゲイルの下で働くようになった。新聞の内容が当時としては進歩的なものだったため、当局から何かと目をつけられていた。2年後、彼はゲイルから仕事を引き継いだ。その際新聞名を「シェフィールド・アイリス」と変更し、以後31年の長きにわたって記者・編集者として健筆をふるった。しかし、その間、2回も投獄の憂き目に遭った(1度目はフランスのバスターユ陥落を祝う詩を掲載したため、2度目はシェフィールドで起こった労働者の暴動を報じたことによる)。彼は常に、弱い立場の人々、奴隷や貧しい労働者たちに心を寄せ、彼の新聞にその悲惨な状況を表す詩をつくっては掲載して、支援していたのである。(次号に続く)

**医療
特集**

**キリストの愛を原点に
6月3日は、救世軍の医療の働きを覚えて医療サンデーを守ります**
救世軍の医療の働きにスポットを当てました。

救世軍医療部基本理念
救世軍医療事業はキリスト教の精神と、救世軍の主義に従い、すべての人の全人的な存在の価値を尊び、キリストが一人ひとり愛されたことを模範とし、キリストに仕えるように個人個人に仕えることをその事業の基盤とする。

清瀬病院 院長 稲葉 裕

●清瀬病院の今年の目標は、ホスピスケアの精神を重んじながら、清瀬病院にしかできないケアを推進することです。緩和ケア病棟にあるチャペルでは、患者様やご家族も参加できる礼拝の時間を持ち、また、チャプレンの働きを通して、霊的なニーズに^{こた}えています。そして、何よりも、お一人おひとりが「その人らしく」生きるためのお手伝いができるように、と願っています。また、ホスピスには開設当初から多くのボランティアの方々のご協力をいただいていることも、清瀬病院の魅力となっています。
清瀬病院では、「はなみずき」と、「ホスピスだより」を発行。わたしたちの働きの理念や、病院の様子を患者様だけでなく、ご家族や地域の方に理解していただけるように、と努めています。
3月31日には、書記長官藤井健次大佐補の司式によって、院内保育園「救世軍きよせ保育園」がオープンしました。これは、病院に勤める職員のお子さんたちの

赤松幾夫兵士を偲んで

福岡小隊の赤松幾夫兵士が天に召されました。87歳でした。
赤松さんは、愛媛県の出身。上京し、宮大工をしていましたが、退職後、一度も訪れたことのない九州をまわろうと一人で博多駅へ来たところ、駅で置き引きに遭い、財産を失い、街頭生活者になってしまいました。ちょうどその頃(2001年)、小隊で街頭生活者への給食奉仕をおこなっており、赤松さんも受け取るようになりました。当時、給食奉仕をしていた小隊士官は、赤松さんが会うたびにやつれ、衣服が汚れていくのを見て心配し、声をかけ、事情を知りました。小隊士官は、赤松さんが年金を受け取れるよう手続きをし、小隊の近くのアパートに住めるよう手伝いました。その後赤松さんは、毎週小隊へ通い、バザーや社会鍋などの奉仕にも参加しました。
2013年に兵士入隊。2015年に自宅で吐血し、胃癌が見つかりました。胃を全摘出しなければならぬほど、癌は進行していました。赤松兵士は親族との関係を

他、救世軍の近隣施設の職員や地域のお子さんにも利用していただけるものです。

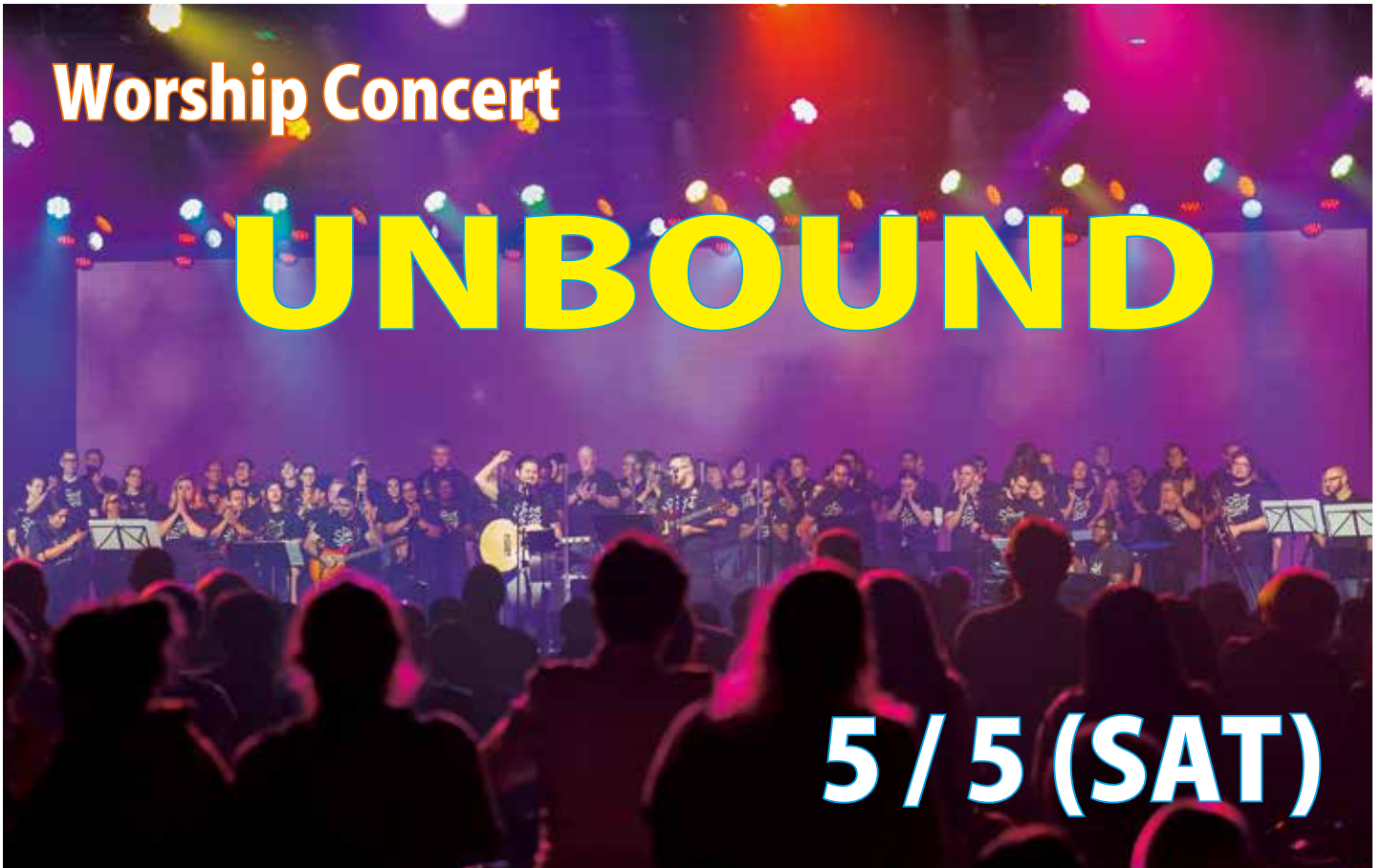
病院をはじめ、清瀬地区の救世軍の施設や小隊のみなさんの見守り、そして、豊かな自然を背景に、子どもたちの健やかな成長がなされるよう願っています。そして、保護者が安心して働けることが、より良い医療の働きがなされていくことに繋がっていくことなのでしょう。

ブース記念病院 院長 及能 克宏

●ブース記念病院の理念である、「キリストの愛を原点に地域医療に貢献する」のもと、「キリストの愛の精神をもって病者に奉仕する」「地域の病者のために医療と介護を行う」「全人的(身体的・精神的・社会的・スピリチュアル)ケアを行う」を病院方針としています。
ブース記念病院の周辺には、ブース記念老人保健施設グレイス、そして、救世軍恵みの家(ユニット型特別養護老人ホーム)があり、それらの施設との連携によって、地域の方が安心して住み慣れた地で暮らせるお手伝いができれば、と願っています。
チャプレンが中心となっておこなっている、毎朝の礼拝や、月に一回開催される日曜午後の礼拝には、病院の患者様だけでなく、近隣施設や、地域の方も集まっています。
音楽や、礼拝送迎、見守り等に、多くのボランティアがご協力くださり、患者様の笑顔がこぼれる環境をつくることのできているのも、ブース記念病院の特徴です。

絶っており、元小隊長夫妻の支援で、手術を受け、退院後、施設に入所することができました。手先の器用さを活かし、紙の箱を折っては、小隊へ献品してくれました。昨年暮れ、赤松兵士は誤嚥性肺炎を起こし、入院。1月1日の誕生日には、小隊長と戦友が見舞いに訪れ、お祝いをしました。2月8日、容体が急変し、お世話をしていた元小隊長夫妻が病院からの連絡を受けて駆けつけた時には、息を引き取っていました。
翌日、福岡小隊に戦友方が集い、お別れ会をし、葬儀の後、救世軍福岡小隊の墓地に納骨されました。
人生の危機を通して、救世軍と出合い、イエス様を知り、父なる神様のもとへ帰って行かれた赤松さんの生涯に、詩編23編の御言葉を思います。「死の陰の谷を行くときも わたしは災いを恐れない。あなたがわたしと共にいてくださる。(4節)」「命のある限り 恵みと慈しみはいつもわたしを追う。主の家にわたしは帰り 生涯、そこにとどまるであろう。(6節)」赤松兵士の歩みに伴ってくださった主を^{まか}せ、私たちも御国への希望を新たに抱いています。(福岡小隊報)

創立者 ウィリアム・ブリス 大将 アンドレ・コックス(万国本営 英国ロンドン)



日本司令官 ケネス・メイナード(救世軍本営 東京都千代田区)

つまり、被造物も、いつか滅びへの隷属から解放されて、神の子供たちの栄光に輝く自由にあずかれるからです。

(ローマの信徒への手紙 8章 2 1 節)

日時：2018年5月5日(土) 午後2時
会場：クリエイションホール

ヤマザキ製パン総合クリエイションセンター内
千葉県市川市市川三丁目 23 番 27 号
京成国府台駅から徒歩 5 分 / JR 市川駅から徒歩 15 分

出演：救世軍アメリカ東部軍国ワーシップバンド

UNBOUND

入場無料 (入場に年齢制限はありません)

主催：救世軍本営青少年部



(取扱支部)

発行日及び定価
 ▼発行日 福音版・毎月一日発行
 広報版・奇数月十五日発行(除く月)
 ▼定価 福音版・一部 四〇〇円
 広報版・一部 一〇〇円
 クリスマス特集号(十二月一日号)
 ・一部 一〇〇円
 振替・〇〇一八〇五四四〇〇

発行兼 救世軍
 印刷人 代表者ケネス・メイナード
 編集人 寺澤 真由子

〒101-0051 東京都千代田区
 神田神保町二丁目十七
 電話 東京(03)三三七〇八八一
 発行所 救世軍本営
 印刷所 株式会社ビーアンドエス

http://www.salvationarmy.or.jp